

安全データシート
(SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称; MARIX NEGAFILM FIXER
供給者; 株式会社トライン
住所; 大阪府豊中市箕輪3-40-3 4階
担当部署; 製造部

問い合わせ先; 電話番号; 06-6151-2711
FAX ; 06-6858-8900
緊急連絡先; 同上

推奨用途; ネガフィルム定着
使用上の制限; 推奨用途以外で使用する場合は専門家への判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体	分類できない	
酸化性液体	分類できない	
酸化性固体	分類できない	
金属腐食性化学品	分類できない	
急性毒性	経口	区分4
	経皮	分類できない
	吸入(蒸気)	分類できない
	吸入(ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A	
呼吸器感作性	分類できない	
皮膚感作性	分類できない	
生殖細胞変異原性	分類できない	
発がん性	分類できない	
生殖毒性	分類できない	
特定標的臓器・全身毒性(単回)	区分2(神経系)	
特定標的臓器・全身毒性(反復)	区分1(全身毒性)	
水生環境有害性	短期(急性); 分類できない/長期(慢性); 分類できない	
その他	オゾン層への有害性: 分類できない	

GHSラベル要素

注意喚起語

危険



危険有害性情報

- H302- 飲み込むと有害。
H319- 強い眼刺激。
H371- 臓器の障害のおそれ。
H372- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

注意書き**【安全対策】**

- ・粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- ・取り扱い後は接触した部分をよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

- ・飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・直ちに医師に連絡すること。
- ・気分が悪い時は、医師/...に連絡すること。
- ・口をすすぐこと。
- ・眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

【保管】

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・子供の手の届かないところに保管する。。

【廃棄】

- ・内容物/容器を指定場所に廃棄すること。

3. 組成・成分情報

化学物質/混合物の区分 : 混合物

成分名	濃度 (wt%)	官報公示整理番号	CAS番号
亜硫酸水素ナトリウム	8.8	1-502	7631-90-5
塩化アンモニウム	17.5	1-218	12125-02-9
亜硫酸ナトリウム	3.5	1-502	7757-83-7
チオ硫酸ナトリウム	65<<75	1-503	7772-98-7

4. 応急措置

吸入した場合

直ちに患者を新鮮な空気のある場所に移し、安静、保温に努め、すみやかに医師の手当を受ける。

呼吸が停止又は殆ど停止状態の場合は衣類をゆるめ、人工呼吸を行う。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服を脱がせる。多量の水かシャワーで皮膚を洗い流す。

有意の炎症がみられる場合は医師の診察を受ける。

眼に入った場合

できるだけ速く、清浄な流水で最低15分間洗い続ける。無理なく外せるならコンタクトレンズは外す。眼瞼をつまみ上げるようにして結膜円蓋をよく洗う。

中和をしてはいけない。

必ず、眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに口の中を水でよく洗った後多量の水を飲ませ、吐き出させる。すみやかに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

棒状の水、霧状の水、二酸化炭素消火剤、泡消火剤、粉末消火剤、乾燥砂が有効である。

特定の危険有害性

燃焼または加熱分解により、有毒ガスが発生する恐れがある。

特定の消火方法

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火作業の際には必ず保護具を着用する。

周辺火災において製品が移動可能な場合は、速やかに火災の影響が及ばない場所に移す。又、移動できない場合は周囲の設備や容器に散水冷却して、容器の熱破損、着火を防止する。

当該製品及び製品を含む消火液が漏出、飛散しないように必要な措置を講ずる。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩場所から関係者以外の人を退避させる。

換気をよくする。

漏れた又はこぼれた製品の処理は保護具を着用する。

大量に漏洩又は災害の発生する恐れのある場合は直ちに関係箇所に通報し、事故防止に努める。

気分が悪い場合は直ちに医師の診断を受ける。

環境に対する注意事項

漏出物を環境に放出しない。

大量に漏洩した場合は下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め、浄化の方法及び機材

漏れた又はこぼれた製品を密閉式(又はふた付き)容器に出来る限り回収し、次に残留液(又は残留物)を乾燥砂などの不活性吸収物質に吸収させて安全な場所に移す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策;

保護具を着用する。

注意事項;

局部排気或いは全体換気を行う。

少量ずつ取り扱い、漏れ・あふれ・飛散、粉塵の発生を防止する。

取扱い後は手洗い及びうがいを十分に行う。

安全取扱注意事項;

作業場への関係者以外の立ち入りを禁止する。

使用済みの空容器は必ず洗浄し、洗浄液は排水等に流出させない。

混触禁止物質との接触を避ける。

保管

技術的対策;

転倒及び落下防止をする。

使用残は容器に破損、腐食、さけめ等がないことを確認して保管する。

保管条件;

直射日光を避け、適切な温度及び通気性の良い(又は換気可能な)屋内貯蔵所で保管する。

法規に準拠して、保管する。

混触禁止物質;

酸、酸化剤及び他の危険性を有するものと離して(好ましくは1m以上)保管する。

容器包装材料(推奨);

当製品と同一の容器包装材料及び表示。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

全体換気装置を設置する。

取扱場所付近に洗眼設備及びうがい設備を設置する。

管理濃度

「労働安全衛生法」に基づく「作業環境評価基準」に示されている物質は含んでいない。

許容濃度

暴露限界値;

成分	CAS 番号	国	許容濃度		最大許容濃度		管理濃度	
			mg/m ³	ppm	mg/m ³	ppm	mg/m ³	ppm
データなし								

「日本産業衛生学会」で許容濃度が勧告されている物質は含んでいない。

生物学的限界値:

成分	CAS 番号	国	単位	限界値	パラメータ
データなし					

保護具

就業する労働者の人数と同数以上を備え、常に有効かつ清潔に保持する。

暴露防止の保護具には、日本産業規格(JIS T8152)に適合したものをを用いる。具体的な保護具は、既知または予測される危険有害性に合わせて選択しなくてはならないが、保護帽、呼吸用保護具、顔面保護面、不浸透性保護衣、保護手袋、ゴム長靴の着用を推奨する。

* 管理濃度、許容濃度は各有害成分の単一物質に対するもので、管理濃度が労働安全衛生法に基づく作業環境評価基準、暴露限界値が日本産業衛生学会による勧告、及びACGIH勧告によるものである。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	粉末
色	データなし
臭い	データなし
pH(当社測定値)	データなし
密度/相対密度(当社測定値)	データなし(かさ密度)
溶解度(水に対する溶解性)	水溶性
引火点(当社測定値)	データなし
爆発性 爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界	通常の取扱い条件下では爆発しない。
融点・凝固点/沸点・初留点 及び沸騰範囲	データなし
n-オクタール/水分係数、動粘性率	データなし
自然発火温度・分解温度	データなし
蒸気圧/相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性/危険有害反応可能性

通常の取り扱い条件下で安定である。

特定の条件下で生じる危険な反応/避けるべき条件
情報が得られていない。

11. 有害性情報

急性毒性

塩化アンモニウム(区分4)LD50 1410mg/kg (経口)

皮膚腐食性/刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

亜硫酸ナトリウム(区分2B)
亜硫酸水素ナトリウム(区分2B)
塩化アンモニウム(区分2B)

皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回)

亜硫酸水素ナトリウム(区分3(気道刺激性))、塩化アンモニウム(区分2)

特定標的臓器・全身毒性(反復)

塩化アンモニウム(区分1)

12. 環境影響情報

生態毒性 :

情報が得られていない。

生体蓄積性 :

情報が得られていない。

土壤中の移動性 :

情報が得られていない。

オゾン層への有害性 :

情報が得られていない

残留性/分解性

情報が得られていない

追加環境毒性学情報:

情報が得られていない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

取扱い及び保管上の注意の項に留意し、国内の法令並びに条例を遵守し処分する。

1wt%以下の水溶液とし、他の廃液との混合を避け、廃水処理をする。

専門業者に廃棄処分を委託することが好ましい。

本品又は稼働液を廃棄する際には、特別管理産業廃棄物として法律に則り処理する。

製品が付着している容器・包装

製品が付着している容器・包装はよく洗浄し、リサイクル又は廃棄処分する。

洗浄に使用した液は取扱い及び保管上の注意の項に留意し、国内の法令並びに条例を遵守し処分する。

14. 輸送上の注意

注意事項

容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。

転倒、荷崩れ、転落、破損等がないように確実に積載する。

容器は収納口を上方に向けて積載する。

取扱い及び保管上の注意の項を留意する。

道路交通法等の輸送に関する法規を遵守する。

国際法規(国連分類・番号)

IMDG Code * 1) ; 非危険物

IATA-DGR * 2) ; 非危険物

* 1) 国際海上危険物規則 * 2) 国際航空運送協会危険物規則

15. 適用法令

労働安全衛生法 表示対象物※	亜硫酸水素ナトリウム; 塩化アンモニウム;
労働安全衛生法 通知対象物※	亜硫酸水素ナトリウム; 塩化アンモニウム;
労働安全衛生法 特化則 特定化学物質	非該当
労働安全衛生法 有機則 有機溶剤等	非該当
化学物質審査規制法(化審法) 特定化学物質	非該当
消防法 危険物	非該当
毒物及び劇物取締法 毒物・劇物	非該当
船舶安全法 危険物船舶運送及び貯蔵規則 危険物	非危険物
航空法 航空法施行規則 危険物	非危険物
海洋汚染防止法 海洋汚染物質	非該当
輸出貿易管理令 別表1(16項除く)	非該当
輸出貿易管理令 別表2	非該当
水質汚濁防止法 有害物質	塩化アンモニウム
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 特別管理産業廃棄物	非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 指定化学物質	非該当

※安衛法表示・通知対象物を含む場合、含有量は営業秘密のため範囲表示にする場合があります。

16. その他の情報

参考文献等

JIS Z 7253-2019_GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル・作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、JIS Z 7252-2019_GHSに基づく化学物質等の分類方法、Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals(GHS) 6th revised edition by UNITED NATIONS、緊急時応急措置指針「ERG 2016版」容器イエローカードへの適用、経済産業省発行事業者向けGHS分類ガイダンス平成25年7月、独立行政法人製品評価技術基盤機構監修のGHS分類物質一覧、一般財団法人化学物質評価研究機構(CERI)公開の化学物質ハザードデータ集。

責任の限定について:

本記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。本製品を扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じてください。尚、本製品安全データシートは安全や品質の保証書ではありません。